五二新聞

08.3.No142
発行責任 市岡日出夫
0883-88-5292

じわじわと ゆっくり 春来たよ。○○○○

二月上旬に紋黄蝶も飛びはじめ、今年の春は、早く来るぞと喜んでいたら、やっぱり、そんなに順調にはやって来ず、三寒四温といわれるように、何回か雪も積ったりしました。

塾にもまだまだなのに、クモがスーと下りてきたり、小さな虫も飛んでたけど、氷点下の時はどうしてたのだろう。

福寿草も早くに咲きはじめ、九百メートルぐらいの林の中でも、我が世の春を楽しんでいるようでした。

畑の中でもオオイヌノフグリやハコベが咲きはじめたりして、野草好きには、たまらない季節になりつつあります。

フキも底の食べ残しが午にはいり、テンプラやフキミソが味わえるようになってきました。

そこで、私の好きな野草のフキワリイチゲも、福寿草ほどに多くはないけれど、ひっそりと咲いている所に出逢うと嬉しくて、しばらくおつきあいをしてしまいます。

行きつ戻りつしながらも、春本番に向っているようです。

そろそろ、冬眠からさめないと、世の中から忘れ去られそうで、天候の良い日には、山の中を歩きはじめよう！と起きはじめる。

この時期の、山の散策は、見晴らしがよくて、落葉を踏みしめて、汗をかけば、気持がいいですよ。

鶯(ミソサザイ)の囀りを背中をおしてくれて、田舎、山を満喫できます。

そういえば、三月一日には、ヤマツツジクヤクも芽が出はじめていました。緑の芽というよりは、赤茶色で、落葉の中から顔を出して、一本発見すれば、次々とみつかり、花の頃までに訪れたくなりました。

暖かくなると、気持のこころも前向きになってきて、何かをやりたくなってくる。

山を歩くだけではなく、農作業も、そろそろはじめなと、気の早い人は、もう少ヤガ芽を植える畑作りをはじめています。

祖谷では、まず少ヤガ芽を植えることが、春の耕作のはじまりです。あっちこっちの段々畑で人々の姿を見はじめると、猪や鹿も、その時を待っているので、春のプレゼントにならないよう注意が必要です。

と言っても、これがなかなか難しい。彼らとの知恵くらべがはじまります。

これも、春のはじまりのお知らせです。

2.21 地域再生フォーラム

二月二十日、東祖谷支所内多目的フォーラムが開かれました。

昨年来、平家落人伝説をはじめとした体験プログラム、茅葺き屋根ワークショップ、祖谷なうどの食べ物の見直し等々と実践してきた活動の報告のあと、地域再生事業の中心的なアドバイスカーさんの「祖谷へのおもいし」の話や、地元からは、落合地区重伝対策協議会長原さん、祖谷コミュニティー中石さんらがパネルディスカッションに参加しました。

祖谷の観光は、点から線として考える必要があり、今後「景観条令」を作定しルールを決めたゾーニング、また、道路周辺のゴミをどうするかなど、様々な意見が出されました。

いずれにしても、東祖谷に住んでる私達が、何を大切にし、何に熱意をかたむけて、伝えていくことが出来るのかが、今、一人ひとりに問われているようです。

～ユキワリイチゲ～